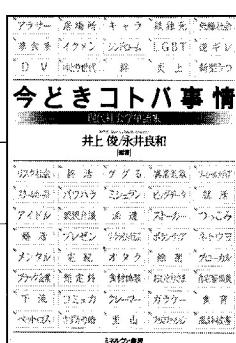


各項目の副題が端的で興味深い。「若者・世代」については次とのおりである。アラサーは女ばかりからの逃走、オタクは成熟社会のロールモデル、キャラは「空気」の中を生き抜く作法、ゆとり世代は「自己管理」を他者に管理される矛盾。ほかでも、炎上はネット・イベント、ソーシャルメディアは社交と孤独の世界、婚活は自由化の裏、ワーク・ライフ・バランスは一生の支援そして介入、居場所はリスク化する社会の拠り所、型うつは深まる承認不安の果て

域は、若者・世代、メディアネット、恋愛・結婚・家族、事業、つながり、食・健康、環境災害の七つである。



本書は、時代の空気を読み解く55個の言葉をとりあげ、その起源や由来、流通の過程、類語との関係等を解説する。その領域は、若者・世代、メディアネット、恋愛・結婚・家族、事業、つながり、食・健康、環境災害の七つである。



井上俊・永井良和 編著
2160円 ミネルヴァ書房
☎075-581-5191

今どきコトバ事情 現代社会学単語帳

など、社会学らしい切り口がある。ただ、本書全体を通して、コミュニケーション能力（「コミュニケーション能 力」）を「正体のない能力」とどちら、「教育不能」とする論調が強い点が、教育の視点からは疑問が残る。グループ内でコミュニケーション力不足と思われないよう努力する若者の姿はたしかに切ない。だが、若者や社会の現場においては、「コミュニケーション力を分解すれば「正体のある能力」として理解されるはずである。これを構造化したものがカリキュラムにはかならない。とにかく批判されると存の学問体系に頼りすぎて、彼らが必要としている「コミュニケーション力」が向いていなかつたという教育側の責任もあるだろう。その上で、ある意味難しい「身内」とのコミュニケーションとは異なる、ある意味シンプルな「社会」の現場で必要なコミュニケーションに、生徒の目を向けさせることも考えたい。

(聖徳大学教授・西村美東士)